

「NEWかべつよし」は、内壁を耐震ボードで補強することで耐震性を向上させる補強キットだ。

施工手順としては、まず壁を剥がし、柱を露出させる。そしてボード材を柱に固定し、最後に上からクロスなどを施行する。

内壁を剥がして筋交いなどを取り付ける場合には、天井と床の一部も剥がす必要がある。しかし、「NEWかべつよし」なら天井や床を剥がす必要がないので、その分コストも工期も大幅に短縮できる。外壁施工と比較すると、3分の1から2分の1程度のコストで施工できる。費用は住宅ごとに異なるものの、材料費・施工費合わせて1カ所15万円程度、3、4カ所に施工するケースが多いという。

壁強さ倍率は大壁用で7・1kN/m、真壁用で5・6kN/m。大壁用では「二つ割たすぎがけ筋交」の壁強さ倍率6・4kN/mを上回るほどの高い強度を確保している。また、強さだけでなく「粘り」も重要な要素のひとつだ。粘りがある素材ならば、大地震の際にも砕けてしまうことがなく、耐震補強部に適している。その点、「NEWかべつよし」は、ボードの素材に木質繊維

エイム「NEWかべつよし」

低コスト・短工期の内壁補強 不燃・透光など充実した ラインナップが魅力

以外にも様々な製品が揃っている。

例えば「モイスかべつよし」は、不燃材モイスを素材とする耐震ボード。パームキュライトという粘土鉱物を含んでいるため、「粘り」にも優れている。また、ボードの上に直接左官仕上げを施すこともできる。

さらには、光と風を通す耐力壁「ひかりかべつよし」もラインナップ。これは、透光製のあるFRP（繊維）を格子状に組み、パネル状にしたもの。光や風を遮らずに耐震性能を高められる。

また、開口部の上下を補強する補強キット「まどつよし」や不燃用開口補強キット「モイスまどつよし」なども用意している。

柱がない壁にも施工できるよう、「板柱太」という後施工柱新設キットも取り揃えている。

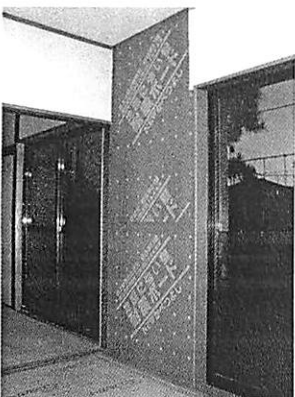
耐震補強の際には、壁の「量」だけでなく、「配置・バランス」も考慮する必要がある。そのため、様々な施工部位に対応できるように、充実したバリエーションが揃っていることが重要になるのだ。

「かべつよし」は2000年に発売された商品だが、発売から10年が経過した現在も出荷台数は着実に伸びているという。

豊富なバリエーションで 適材適所を実現

「NEWかべつよし」シリーズには、MDF製の「NEWかべつよし」

エイム



「NEWかべつよし」

内壁を剥がし、耐震ボードを取り付けることで、耐震性を向上させる。大壁用で壁強さ倍率7.1kN/m、真壁用で壁強さ倍率5.6kN/mという「強さ」を確保する一方で、木質ボードならではの「粘り」も兼ね備えている。